

由利本荘市の西目高校土木系列の3年生11人が、授業で学んだ技術を生かした地域貢献活動に取り組んでいる。田んぼ

アートの測量や小学校駐車場の区画線引き作業などを担い、地域から感謝の声が寄せられる。

西目高 土木系列3年生

5月中旬には鳥海山ろく線曲沢駅隣の水田で、田んぼアートの測量作業に挑戦。生徒たちは、地元建設会社の社員の指導を受けながら、絵柄や文字を表現する稲の場所に目印の竹筒を打ち込んだ。

生徒たちは授業での経験を生かし、児童にローラーの使い方を教えながら一緒に塗料を着色。地元塗料店の協力の下、直線を引くことなどをアドバイスし1時間ほどで終えた。西目小の齋藤竜太校長は「丁寧に教えてくれ、とても良い交流ができた。児童はこんな高校生に憧れるのでは」と感謝した。

「そつそつ」「うまいじゃん」。6月2日、同市の西目小学校体育館前の駐車場で、西目高校生徒が西目小6年生と白線を引き直した。

学んだ技術で地域貢献

学校駐車場線引き／田んぼアート測量



駐車場の区画線を引く手順を児童に教える生徒（右）＝6月2日、西目小学校

今年の田んぼアートは、鳥海山を背景に走る由利高原鉄道のおぼこ号と「ゆり」の文字を描くデザイン。生徒たちは約3時間かけて作業した。

今年度の田んぼアートは、鳥海山を背景に走る由利高原鉄道のおぼこ号と「ゆり」の文字を描くデザイン。生徒たちは約3時間かけて作業した。



田んぼアートの測量作業を行う生徒＝5月中旬、由利本荘市前郷の水田

西目高校によると、区画線引き作業は高校側が小学校に提案し実現。田んぼアートの測量は、主催者から依頼を受けて行った。土木系列の生徒は例年、総合的な探究の時間を使い、技術を生かした活動を企画する。本年度の3年生は地域の中で学びを生かしたいと、2年次からボランティア活動に取り組んできた。

3年の佐藤彩葉さんは「地域の人口が減る中だからこそ、子どもたちが地域の人と協力して行事や活動に取り組むことが大切。自分も将来、地域の役に立つ側になれたらうれしい」と話した。（清水美沙）